

群馬大学共同教育学部「技術科指導法Ⅳ」（3-4年生）授業実践報告

小熊, 良一
群馬大学共同教育学部技術教育講座 : 講師

<https://hdl.handle.net/2324/4798358>

出版情報 : オンライン授業の地平 : 2020年度の実践報告, pp.33-33, 2021-04-30. 雷音学術出版
バージョン :
権利関係 : Creative Commons Attribution-NoDerivatives International

1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

本授業は、学校現場の実践を踏まえ、技術・家庭科(技術分野)の指導力を身に付けることをねらいとしたものである。授業の特性上、対面での授業が望ましいが、新型コロナウイルス対策のためオンライン授業での実施が余儀なくされた。演習中心の授業において、学生の指導力をつけるため行った取り組みを報告する。

毎時間の授業の流れは、学生1名が教師役、他の学生は生徒役となり50分の模擬授業を実施する。模擬授業終了後に授業分析を行う。なお、教師役の学生は、事前に学習指導案、教材や学習プリントを準備する。

授業の学習形態は、「A.一斉学習」「B.グループ別学習」「C.個別学習」の3種類に分類できる。また、学習形式は、「1.講義形式」「2.演習形式」「3.実習形式」の3つに分類できる。オンライン授業は、「C.個別学習」、「3.実習形式」の授業に適していない。例年実施している対面授業では、「C.個別学習」、「3.実習形式」を中心とした授業も行っていたが、オンライン授業に適さないため、模擬授業は、「A.一斉学習」「B.グループ別学習」「1.講義形式」「2.演習形式」が中心となる内容にして実施した。

授業は、オンライン会議システム「Zoom」をもちいてライブ型の授業を実施した。「B.グループ別学習」は、「ブレイクアウトルーム」の機能を利用した。資料は、群馬大学で導入している学習管理システム「Moodle」で一括配布を行った。なお、学生が作成した資料については、一度、メールにて指導教員に提出させ、内容や著作物利用に問題がないか確認してから「Moodle」に載せるようにした。

また、授業分析については、「Google Jambord」を利用し、KJ法による分析を行った。授業中に気づいたことは、「Google Jambord」の付箋に記入させるようにした。なお、今回は実施しなかったが、「Zoom」の録画機能を利用することで、録画した画像を確認しながら授業分析も可能になる。

2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

模擬授業をオンラインで実施することで学生は様々な工夫を試みた。ここでは、学生が行ったオンライン授業で効果的と思われる工夫を3つ紹介する。

<提示資料>対面による模擬授業では、教科書を実物投影機で提示することが多かった。オンラインの模擬授業では、プレゼンテーションソフトウェアで作成した提示資料を利用し授業展開をコントロールしていた。

<簡易実験器具による模擬実験>教師役の学生が、ペットボトルなど身近にある材料を使った簡易実験器具をつくりライブ型授業で中継する様子が見られた。

<オリジナル動画作成>授業を実施するにあたり、スマホやタブレットを使い簡単な動画を作成し、授業で活用していた。

オンラインの模擬授業にとまどっていた学生も、徐々に慣れ、15回の授業が終了する時には、例年と変わらない指導ができるようになっていた。しかし、「C.個別学習」の指導について講義になってしまったことが課題として残った。今後は、対面授業とオンライン授業のそれぞれの特性を踏まえて、学習形態、学習形式にあった授業を進めていく必要がある。本実践は高等教育での取り組みであるが、タブレット型端末・インターネット環境が整う2021年度からは初中等教育においても参考になると考える。